



英語教育改革の現状と 今後の展望

藤田 保

上智大学 言語教育研究センター
小学校英語指導者認定協議会 理事



I . 学習指導要領改訂 の背景

背景：子どもたちの未来

- 現在の子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く（キャシー・デビッドソン [ニューヨーク市立大学大学院センター教授]）
- 今後10～20年程度で約47%の仕事が自動化される可能性が高い（マイケル・A・オズボーン [オックスフォード大学准教授]）
- 2030年までには週15時間程度働けば済むようになる（ジョン・メイナード・ケインズ [経済学者]）

→ 現状をベースに子どもたちの未来を考えない

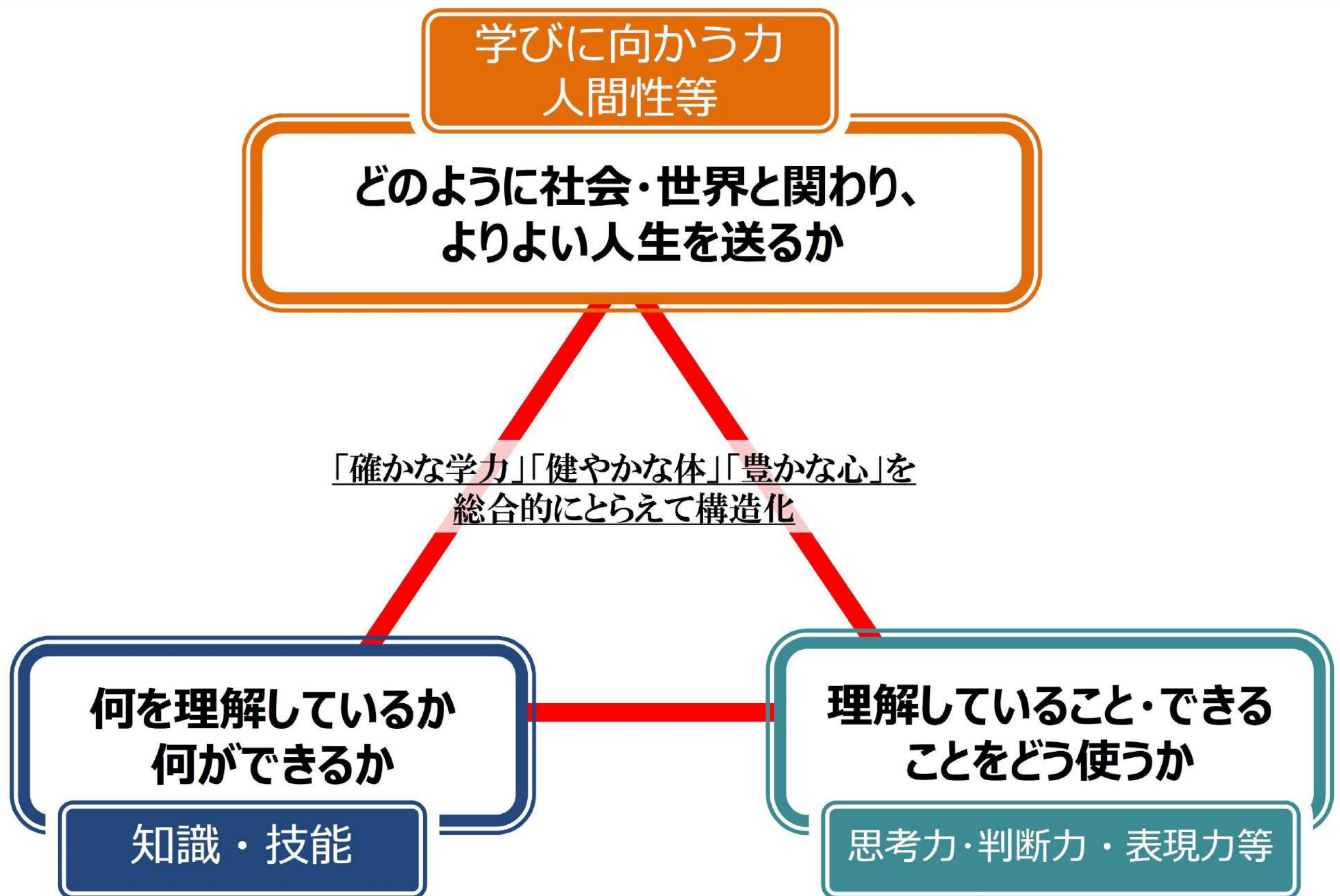
背景：子どもたちの未来

“VUCA” World

- **V**olatility （変動性）
- **U**ncertainty （不確実性）
- **C**omplexity （複雑性）
- **A**mbiguity （曖昧性）



将来を見通すこ
とが困難で、
「正解」の
ない時代



学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

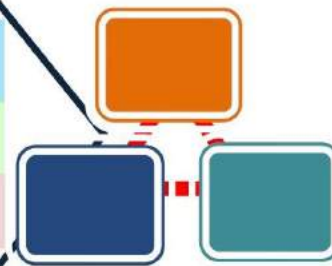
生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び



※高校教育については、些末な事実に知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

アクティブ・ラーニング

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

（文部科学省中教審答申 2012

）

アクティブ・ラーニング

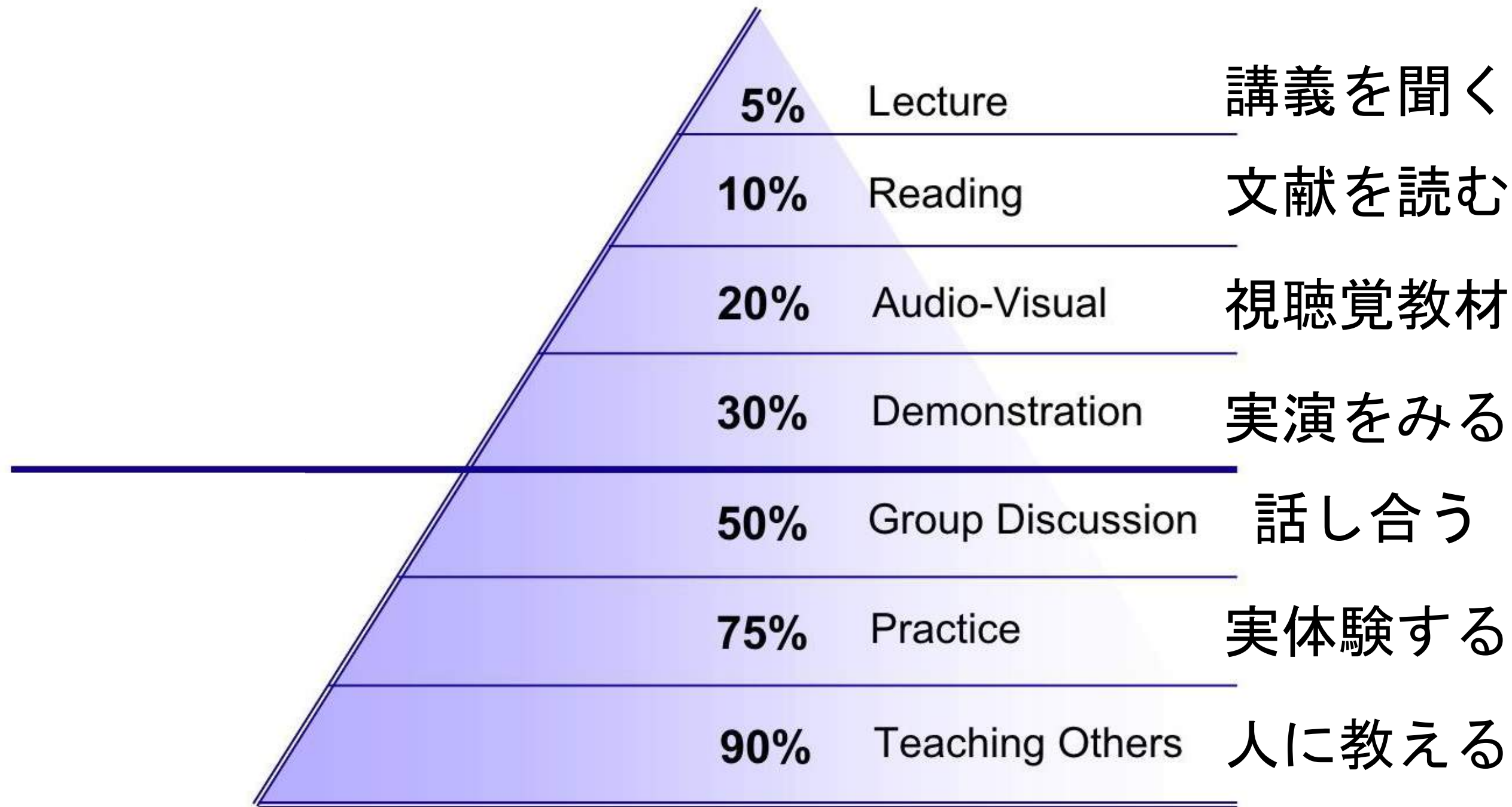


主体的・対話的で

深い学び

The Learning Pyramid*

Average Retention Rates



*Adapted from National Training Laboratories. Bethel, Maine

<http://www.une.edu/studentlife/biddeford/las-1>

Ⅱ. 学習指導要領改訂 の内容

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠（CEFR）について

- CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。 いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。 自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。 社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。 複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。 母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。 幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。 その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。 身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言 語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。 もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典）ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

外国語教育の抜本的強化のイメージ

参考資料

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

CEFR

B2

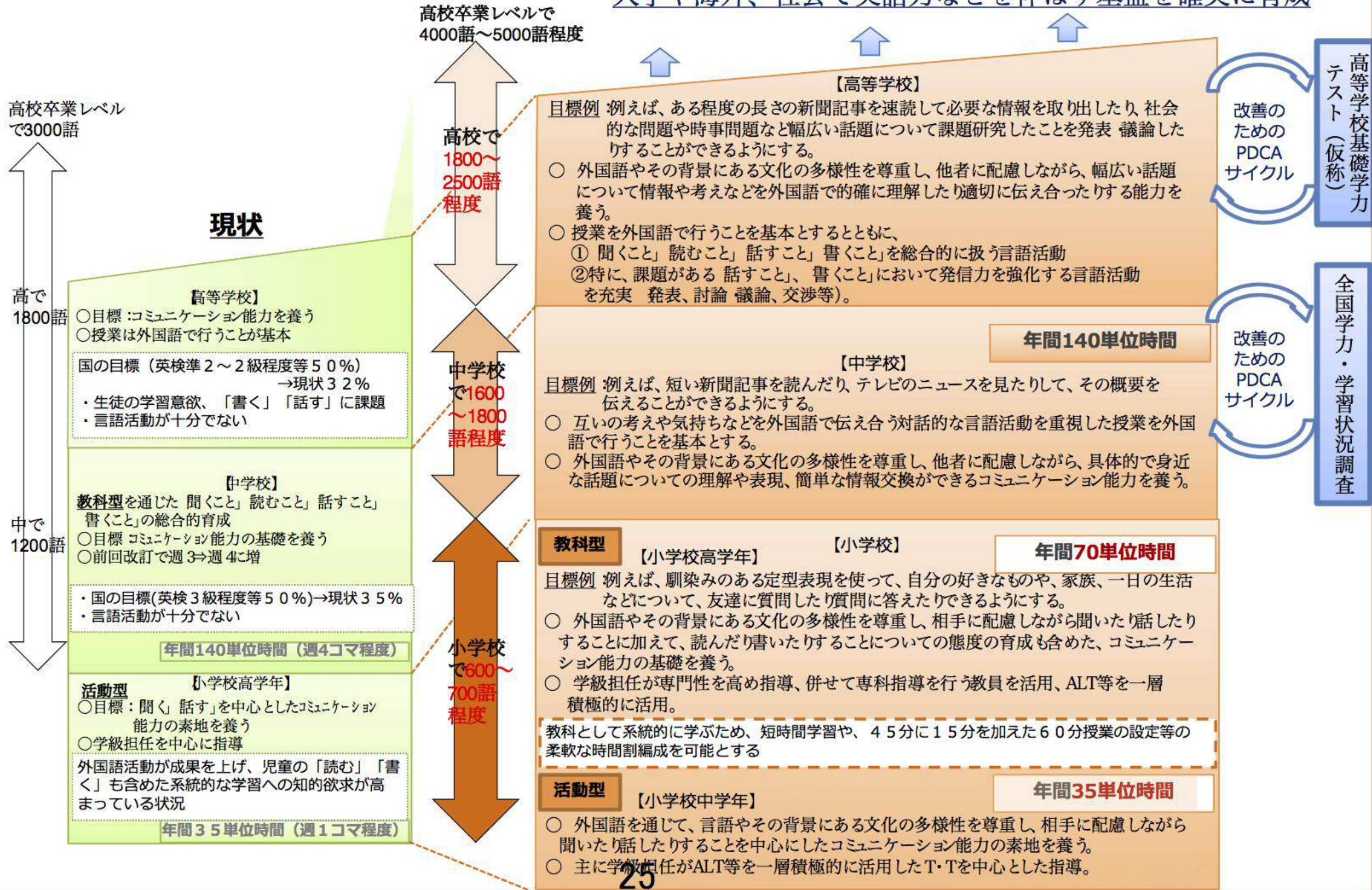
B1

A2

A1

新たな外国語教育

大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基盤を確実に育成



外国語教育の抜本的強化のイメージ

参考資料

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

CEFR

B2

B1

A2

A1

新たな外国語教育

大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基盤を確実に育成

高等学校

- ・ 5領域を総合的に扱う科目群として「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を、発進力を高める科目群として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定
- ・ 授業は外国語で行うことを基本とする（前回改定より）

中学校 年間140単位時間（週4コマ程度）

- ・ 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝えあう対話的な活動を重視
- ・ 具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実
- ・ 授業は外国語で行うことを基本とする

5・6年（教科型） 年間70単位時間（週2コマ程度）

- ・ 段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
- ・ 指導の系統性を確保〔15分程度の短時間学習の活用等を含めた弾力的な時間割編成も可能〕

3・4年（活動型） 年間35単位時間（週1コマ程度）

- ・ 「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」を中心とする
- ・ 外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

現状

高校卒業レベル
で3000語

高で
1800語

中で
1200語

高校卒業レベルで
4000語～5000語程度

高校で
1800～
2500語
程度

中学校
で1600
～1800
語程度

小学校
で600～
700語
程度

【高等学校】

- 目標：コミュニケーション能力を養う
- 授業は外国語で行うことが基本

国の目標（英検準2～2級程度等50%）
→現状32%

- ・ 生徒の学習意欲、「書く」「話す」に課題
- ・ 言語活動が十分でない

【中学校】

教科型を通じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的育成

- 目標：コミュニケーション能力の基礎を養う
- 前回改訂で週3→週4に増

- ・ 国の目標（英検3級程度等50%）→現状35%
- ・ 言語活動が十分でない

年間140単位時間（週4コマ程度）

【小学校高学年】

活動型

- 目標：聞く、話すを中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
- 学級担任を中心に指導

外国語活動が成果を上げ、児童の「読む」「書く」も含めた系統的な学習への知的欲求が高まっている状況

年間35単位時間（週1コマ程度）

改善のための
PDCA
サイクル

高等学校基礎学力
テスト（仮称）

改善のための
PDCA
サイクル

全国学力・学習状況調査

(2) 2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 2の(1)に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

オ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。（小学校）

オ 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。（中学校）

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

目標

現行学習指導要領

小学校

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

中学校

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

高等学校

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

目標：外国語活動（3・4年生）

- 方動・
 え活質・
 考語資
 ・言る
 方のな
 見とと
 るこ地
 けす素
 お話る
 に、図
 ンとを
 ヨこん
 シくヨ
 一聞シ
 ケる一
 ニよケ
 ュに二
 ミ語ユ
 コ国ミ
 る外コ
 よ、の
 にせて
 語かし
 国働通
 外をを
- (1)
- (2)
- (3)
- 理気慣
 にに
 的等現
 験い表
 体違な
 ての的
 い声本
 つ音基
 のや
 声
 文語音
 や国の
 語外語
 につえ
 考
 柄の
 事分
 て、
 深いう
 養通を
 解をを
 地語理
 素国る
 身しの
 外す外
- 話う力
 いた合
 聞伝え
 でを
 外国な
 持ち
 て、気
 いや
 え
 言相
 コ
 の慮
 背景
 にあ
 文化
 文主
 対に
 的と

目標：外国語（5・6年生）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、言語活動を通じ、外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いた話したりするとも、音分な十分慣れ親しんだ外語の語彙や基本的な表現を推測の考えがや気持の背景に、語順を合意う。自養分う。考
- (3) 外国語の主度的に、外国語を用いて理解を深め、他者に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする。

目標： 中学校

せ語伝お
か言りと
働のたの
をと次の
方これを
えく表力
考書り能
・た・
方とし質
見こ解資
るす理る
け話を図
おとを
ンこえン
ヨむ考シ
シ読や一
一、報ケ
ケと情ニ
ニこなユ
ユく単ミ
ミ聞簡コ
コる、と
るよてす
よにしる
に語通た
語国をつ
国外動合
外、活えり

- (1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと，これらによる実際のコミュニケーションにおいて活用でき，コミュニケーションの場面で，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを伝えたり，これらを養う。聞き手，読み手，話し手，書き手，文法，語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと，これらによる実際のコミュニケーションにおいて活用でき，コミュニケーションの場面で，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを伝えたり，これらを養う。
- (2) コミュニケーションを目的とする場合，状況などに応じて，外国語で簡単な情報や考えなどを伝えたり，これらを養う。聞き手，読み手，話し手，書き手，文法，語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと，これらによる実際のコミュニケーションにおいて活用でき，コミュニケーションの場面で，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを伝えたり，これらを養う。
- (3) 外国語の背景に，文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手，文法，語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと，これらによる実際のコミュニケーションにおいて活用でき，コミュニケーションの場面で，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを伝えたり，これらを養う。

目標の改善

外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。

学習指導の改善・充実

- 言語材料については、発達の段階に応じて、児童が受容するものと発信するものとがあることに留意して指導することを明記した。
- 「推測しながら読む」ことにつながるよう、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、音声と文字とを関連付けて指導することとした。
- 文及び文構造の指導に当たっては、文法の用語や用法の指導を行うのではなく、言語活動の中で基本的な表現として繰り返し触れることを通して指導することとした。

聞くこと

小学校 外国語活動

ア. ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

イ. ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。

ウ. 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

小学校 外国語

ア. ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

イ. ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

ウ. ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

中学校 外国語

ア. はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。

イ. はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

ウ. はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

話すこと [やり取り]

小学校 外国語活動

ア. 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようになる。

イ. 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ. サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようになる。

小学校 外国語

ア. 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようになる。

イ. 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

ウ. 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようになる。

中学校 外国語

ア. 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようになる。

イ. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

ウ. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようになる。

話すこと [発表]

小学校 外国語活動

ア. 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

イ. 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

ウ. 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

小学校 外国語

ア. 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

イ. 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

ウ. 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

中学校 外国語

ア. 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

イ. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

ウ. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

読むこと

小学校 外国語

ア. 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

イ. 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

中学校 外国語

ア. 日常的な話題に関して、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

イ. 日常的な話題に関して、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

ウ. 社会的な話題に関して、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

書くこと

小学校 外国語

ア. 大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。
また，語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ. 自分のことや身近で簡単な事柄について，例文を参考に，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

中学校 外国語

ア. 関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

イ. 日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

ウ. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

3年生 外国語活動

「自分たちの絵本を作ろう」

単元の目標

- ・ まとまりのある英語での物語を聞いて、その概要を理解しようとする。
- ・ 絵本の筋にあわせて、相手意識を持って自分が選んだ動物を紹介しようとする。
- ・ 動物や体の部位、形状を表す語に慣れ親しむ。
- ・ カタカナで表す動物とその英語との音の違いに気づく。

指標形式（CAN-DO）の目標

- 聞くこと： ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表すごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。
- 話すこと： 自分や身の回りの事物に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

「自分たちの絵本を作ろう」

具体的な評価基準

【知識・技能】

- ・ 動物や体の部位、形状を表す語を理解している。
- ・ カタカナで表す動物とその英語との音の違いに気づいている。

【思考・判断・表現】

- ・ まとまりのある英語での物語の概要を理解して表現している。
- ・ 絵本の筋にあわせて、相手意識を持って自分が選んだ動物を紹介している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ まとまりのある英語での物語の概要を理解し、表現しようとしている。
- ・ 絵本の筋にあわせて、相手意識を持って自分が選んだ動物を紹介しようとしている。

B2

B1

A2

A1

これまで何をどう学び、これからどのように学んでいくのかという「接続」を意識しながら教える

漸進的展開

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

小学校

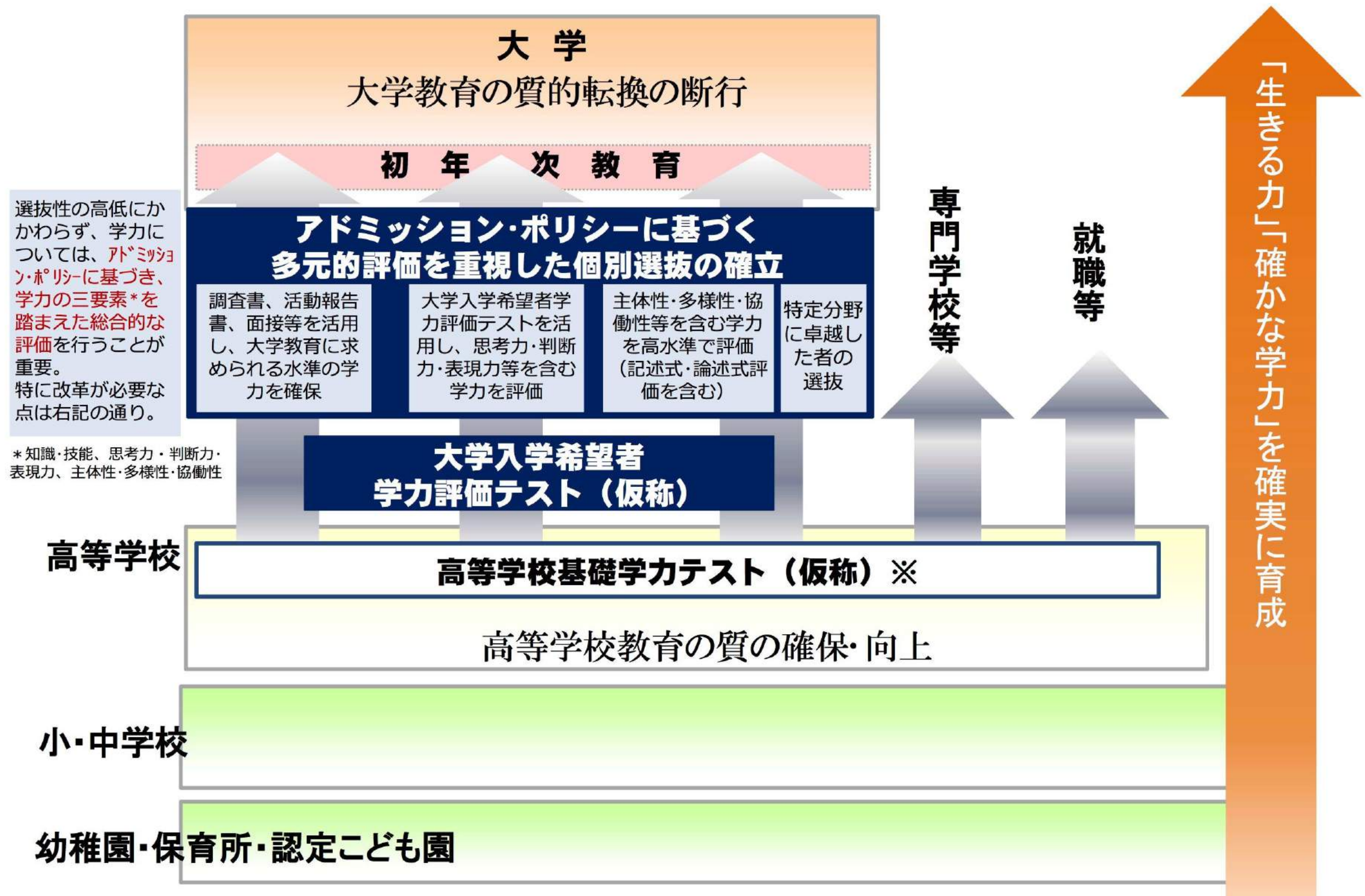
中学校

高等学校

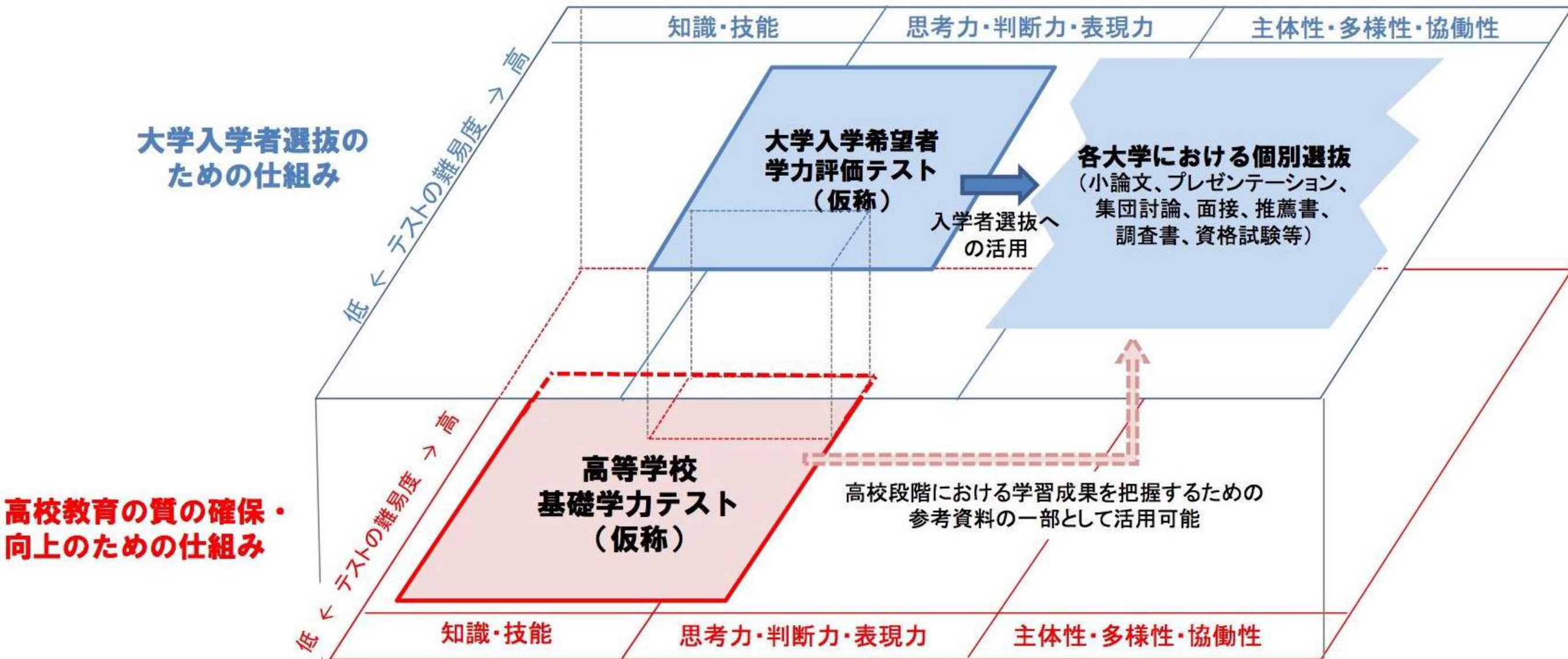
Ⅲ. 新学習指導要領 と入学者選抜

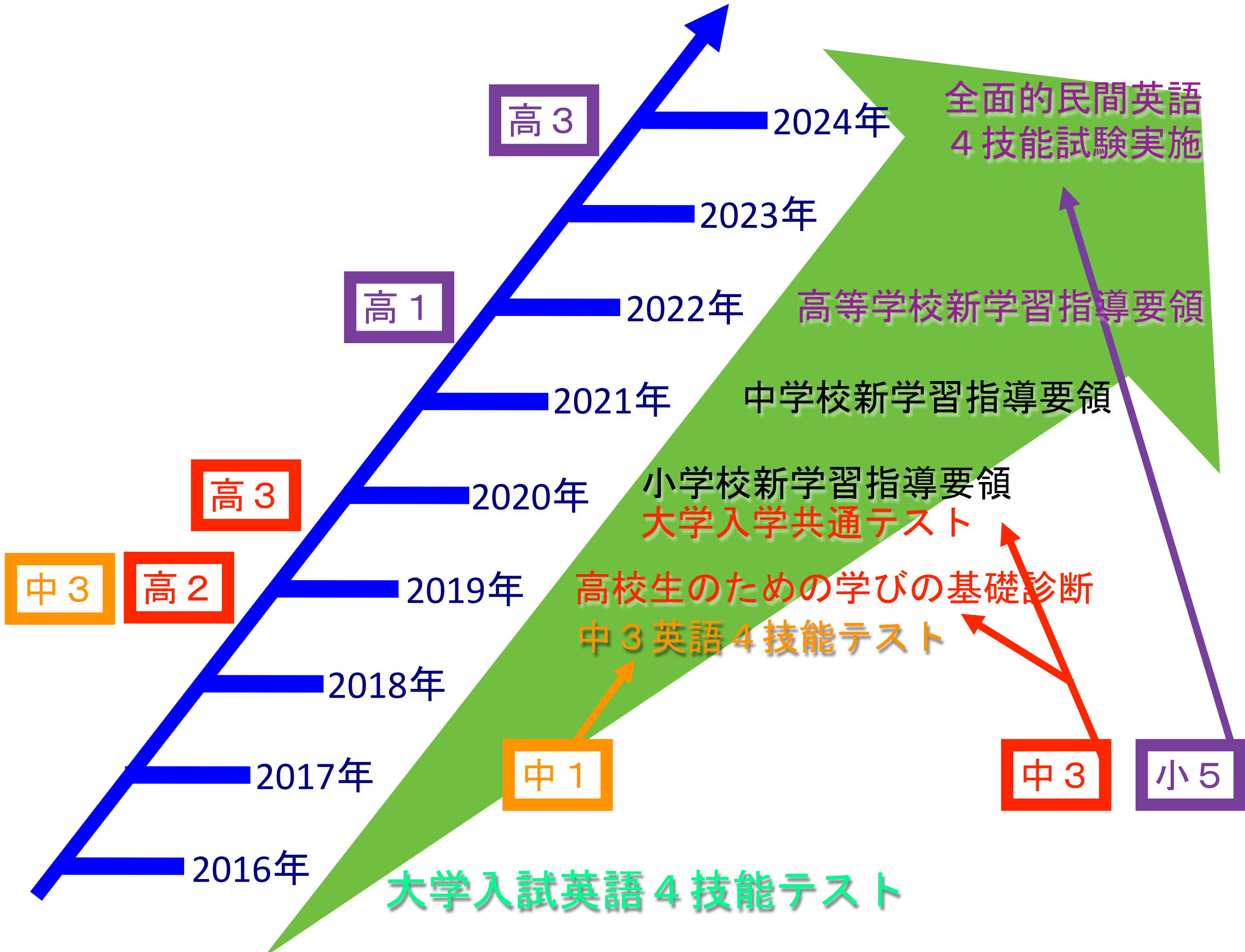
大学入学者選抜改革の全体像（イメージ）（案）

※「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、入学者選抜への活用を本来の目的とするものではなく、進学時への活用は、調査書にその結果を記入するなど、あくまで高校の学習成果を把握するための参考資料の一部として用いることに留意。



「高等学校基礎学力テスト(仮称)」と「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の 難易度と活用方策イメージ





高大接続改革の進展

- 〔大学教育の改善に向けて〕 三つの方針（1 卒業認定・学位授与方針、2 教育課程の編成・実施方針、3 入学者受け入れ方針）に基づく大学教育の質的転換
- 〔高校教育の改善に向けて〕 高等学校学習指導要領の改訂を見据えた教育課程の見直し、学習・指導方法の改善
- 〔大学入学者選抜の改善に向けて〕 大学入学共通テストの導入、アドミッション・ポリシーに基づく個別大学の入学者選抜の改革

大学入学共通テスト実施方針

1. 記述式問題の導入

2. マーク式問題の工夫・改善

→ 知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視

3. 英語の4技能評価

「大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）について」

<http://www.dnc.ac.jp/news/20171006-01.html>

〔国語〕

- ・ 近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象
- ・ 言語を手がかりとしながら、与えられた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じた文章を書いたりすることなどが求められる
- ・ 固定化した分野から一つの題材で問題を作成するのではなく、分野を越えて題材を組み合わせたり、同一分野において複数の題材を組み合わせたりする問題も含まれる

〔数学〕

- ・ 事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことや、目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順に従って数学的に処理することなどが求められる
- ・ 日常の事象や、数学のよさを実感できる題材、受験生が既知ではないものも含めた数学の事実、定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等も取り扱う

〔歴史〕

- 用語に関する知識ではなく、事象の意味や意義、特色や相互の関連等に関する理解が求められる
- 教科書等で扱われていない初見の資料についても、そこから得られた情報と授業で学んだ知識を活用しながら、仮説を立てたり、歴史的事象の展開を考察したりすることができるかどうかを問う問題や、時代や地域によらず「歴史の見方」のようなテーマを設定した問題、時間軸を長く取った時代を貫く問題なども含まれる

〔理科〕

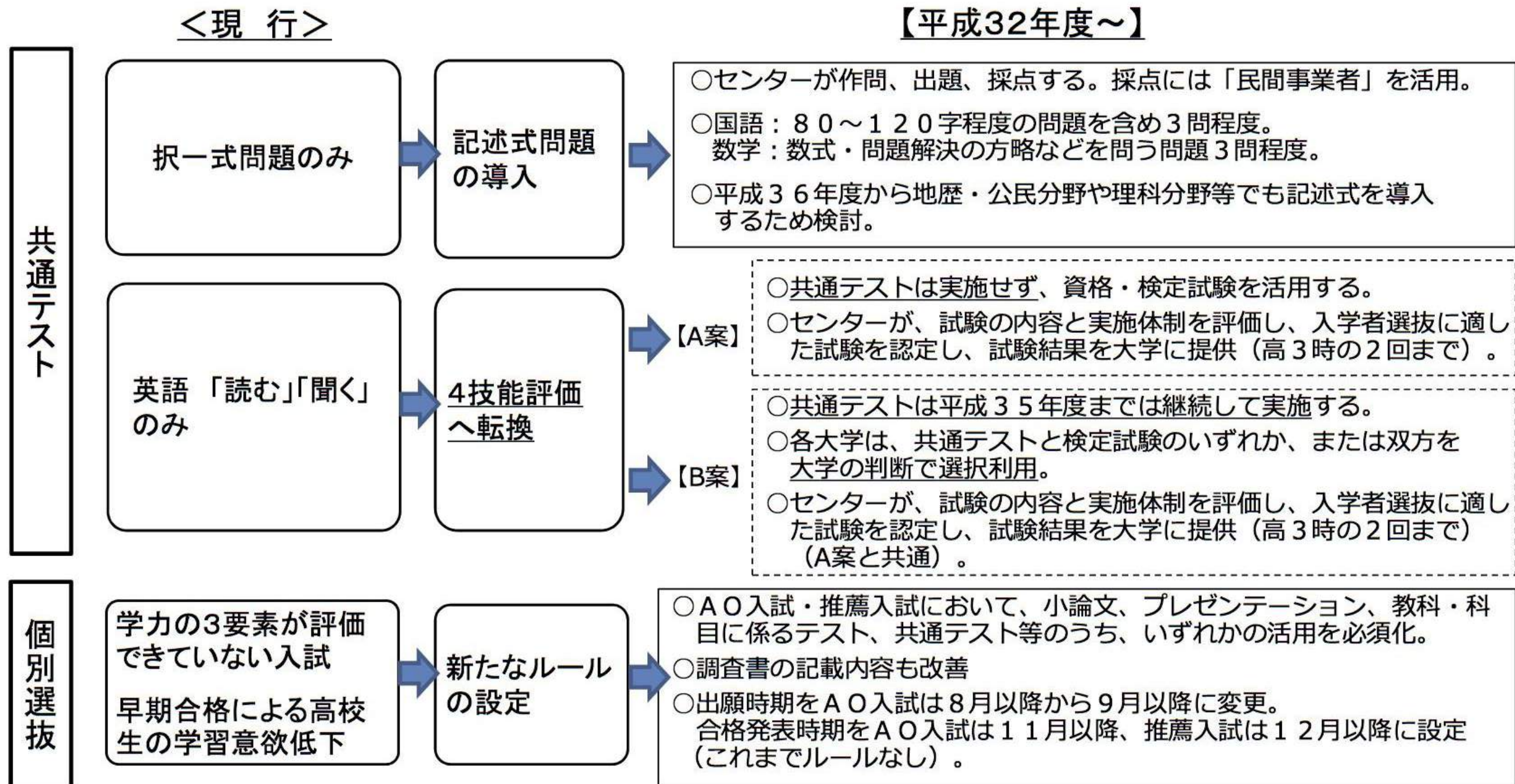
- ・ 自然の事象の中から本質的な情報を見だし、課題の解決に向けて主体的に考察・推論することが求められる
- ・ 教科書等では扱われておらず受験生にとって既知ではない資料等を分析的、総合的に考察することができるかという、深い理解を伴う知識や思考力等を問う問題や、仮説を検証する過程で、数的処理を伴う思考力等が求められる問題なども含まれる

〔英語〕

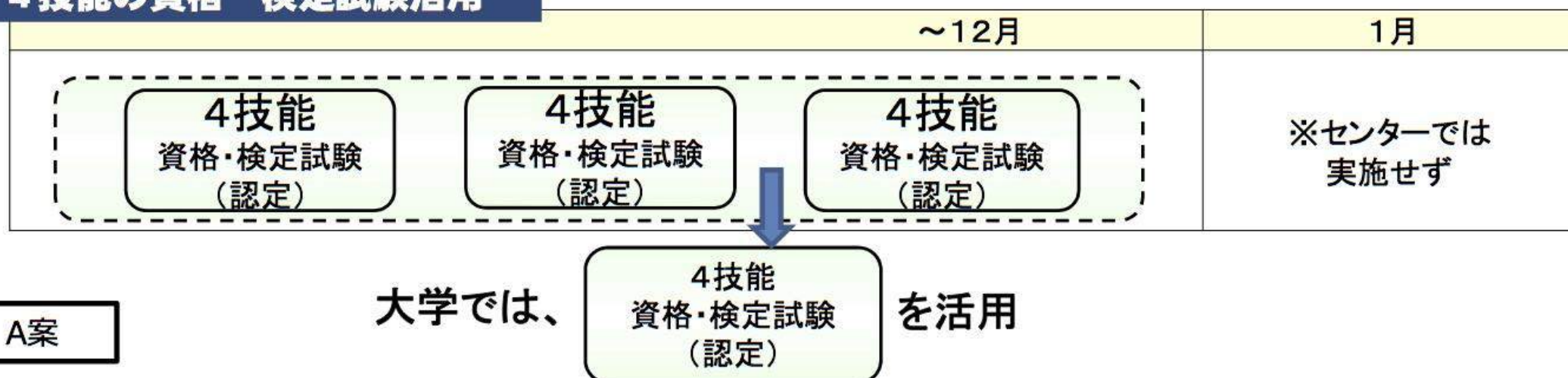
- ・ 「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するための問題の在り方について検証しつつ、英語の資格・検定試験活用に関する方針も踏まえる
- ・ 筆記（リーディング、マーク式）については、必要な情報を整理する力や談話構成を理解する力、要約する力等を、リスニングについては、複数の情報を聞いて判断したり、議論を聞いて内容を把握したりする力等を評価することをねらいとした作問を工夫する

高大接続改革（大学入学者選抜改革）

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
 - ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 平成32年度「大学入学共通テスト(仮称)」開始 ※記述式、英語4技能
平成36年度 新学習指導要領を前提に更に改革



【A案】 4技能の資格・検定試験活用



【B案】 英語 4技能の資格・検定試験活用と 2技能のセンター実施 (※)



(※) 2技能のセンター実施は、平成35年度まで

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0					
C1	CAE (180-199)	1級 (2630-3400)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2304-3000)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1980-2600)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1284-1800)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	150-225	235-415		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (419-1650)	-699	-564 L&R&W -484	2.0					200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/association/info/2015/pdf/20151218_pressrelease_CSE2.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

(実用英語)
英語ができる

≠

英語の試験ができる
(受験英語)

参考文献

和泉伸一『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業』、2016年、アルク

英語 4 技能試験情報サイト <http://4skills.eiken.or.jp>

P. グリフィン、B. マクゴー、E. ケア（編）三宅なほみ他（訳）『21世紀型スキル：学びと評価の新たなかたち』、2014年、北大路書房

大学入試センター『大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）について』（2017年10月06日） <http://www.dnc.ac.jp/news/20171006-01.html>

上智大学CLTプロジェクト『コミュニカティブな英語教育を考える』、2014年、アルク

大学英語教育学会（監）小嶋英夫、廣森友人、尾関直子（編）『成長する英語学習者—学習者要因と自律学習（英語教育学大系）』、2010年、大修館書店

中央教育審議会教育課程企画特別部会「英語教育の抜本的強化のイメージ」（平成27年8月5日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/08/06/1360750_2-2.pdf

中央教育審議会教育課程部会外国語ワーキンググループ 資料 5（平成27年12月21日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/058/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/12/25/1365545_4.pdf

津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ（編）『第二言語学習と個別性—ことばを学ぶ一人ひとりを理解する』、2006年、春風社

参考文献

日本英語検定協会『TEAP』サイト <http://www.eiken.or.jp/teap/>

文部科学省『現行学習指導要領・生きる力』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/

文部科学省『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』文部科学省（平成25年12月13日）
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704_01.pdf

文部科学省『今後の英語教育の改善・充実方策について 報告 ～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～』（平成26年9月26日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm

文部科学省『英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会』 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/index.htm

文部科学省『中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 教育課程企画特別部会（第7期 教育課程部会 教育課程企画特別部会（第7期） 議事要旨・議事録・配付資料』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/giji_list/index.htm

文部科学省『教育課程企画特別部会 資料2教育課程企画特別部会論点整理(案) 補足資料』（平成27年8月20日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/__icsFiles/afieldfile/2015/08/21/1361102_2_1.pdf

参考文献

文部科学省『教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）』（平成27年8月26日） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm

文部科学省『高大接続システム改革会議「中間まとめ」の公表について』（平成27年9月15日） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1362096.htm

文部科学省『「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」で評価すべき能力と記述式問題イメージ例【たたき台】』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2015/12/22/1365554_06_1.pdf

文部科学省『学校教育法施行規則の一部を改正する省令案並びに幼稚園教育要領，小学校学習指導要領案及び中学校学習指導要領案に対する意見公募手続（パブリック・コメント）の実施について』（平成29年2月14日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/02/1382218.htm

文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編』（平成29年6月）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1387017_11_1.pdf

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（平成29年6月）

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1387017_13_1.pdf

文部科学省『新教材説明会での配布資料について』（平成29年10月）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

文部科学省『mextchannel (YouTube)』

<https://www.youtube.com/channel/UCL2DLwqqYxa0Q5DcGoQGbrw>

山本崇雄『はじめてのアクティブ・ラーニング！ 英語授業』2015年、学陽書房

山本崇雄『なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか』2016年、日経BP社

渡部良典、和泉伸一、池田真『CLIL（クリル）内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たな挑戦 第1巻 原理と方法』、2011年、ぎょうせい

渡部良典、和泉伸一、池田真『CLIL（クリル）内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たな挑戦 第2巻 実践と応用』、2012年、ぎょうせい

渡部良典、和泉伸一、池田真『CLIL（クリル）内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たな挑戦 第3巻 授業と教材』、2016年、ぎょうせい